



DADDYLABのアイテム。よく回るホイール、軽量ハンドルバー、ハーフフィンガーグロブ……子供よりむしろパパが萌えるラインナップだ。



試行錯誤の上、試作図面を作る。長谷川氏は元々自動車のエクステリアデザイナーだったこともあり、造形デザインは得意分野だ。

We love inspiring kids to ride

## 受け継がれたのは、“子供を伸ばす”父親のスタンス

# ストライダー文化の裏の、ある父親の物語

ストライダーの生みの親ライアン・マクファーランド氏とストライダーのカスタムパーツブランドを手がけるDADDYLAB（ダディラボ）の長谷川一英氏。2人に共通する子供の可能性の伸ばし方とは？

Photo >> DAISUKE TSUZUKI Text >> TAKESHI TOYAMA

アメリカの片田舎で誕生した息子に贈る「改造自転車」

ストライダーが生まれたのは、アメリカの片田舎のガレージだった。2歳の息子に子供用自転車を与えたライアン・マクファーランド氏は、自転車の重さと複雑さに悪戦苦闘する息子を見て、「この自転車ではダメだ。息子のために、カスタマイズしてあげよう」と決意する。もっと軽く、もっとシンプルに。自転車の無駄を徹底的に省く作業が始まった。試行錯誤を重ね、ついにはクランク、軸受、チェーン、そしてペダルまでなくしてしまう。劇的に軽くなったバイクにまたがった彼の息子はすぐに歩きだし、「パパ、見てー」と誇らしげに声をあげたという。

その1年後には補助輪なしの自転車に乗れるようになり、さらにその半年後には、ダートバイクにトライし、見事に乗りこなした。子供用自転車と格闘していた2歳の頃には考えられなかったことである。

ライアン氏は息子の可能性を見つけて専用の自転車を生み出し、それを与えて成長を見守った。ストライダーには子供の成長を願う父親の想いが宿っているのだ。

### 我が子の可能性を広げる専用のカスタムパーツ

ところ変わって、日本の父親の話である。「ストライダーを目にしたとき、それにまたがる子供の姿や家族の絆などのイメージがふつと浮かびました。一過性のブームではなく文化に昇華するような、そういうパワーを感じたんです」と話すのは、DADDYLABの長谷川氏。ストライ

ダーに可能性を感じたからこそ、その「色付け」をしたいという気持ちが出てきたのだそう。

「当時のホイール（タイヤ）は黒のワンカラーのみでした。少し寂しい気がして、ホイールに貼るデカールを作ったんです。それを企画書とともにストライダー・ジャパン（日本正規代理店）に送ると、すぐに「一度会いましょう」ということになりました」（長谷川氏）。

これがDADDYLAB製のカスタムパーツ誕生のきっかけである。長谷川氏はデザインのプロだが、製造拠点を探して輸入するという経験はゼロ。工場からあがってきたモノの色やカタチが違うことが何度もあり、苦労の連続を経てクオリティを上げていったという。

そうして1人の父親の人生を大きく動かしたストライダーは、当時2歳だった息子のファーストバイクとして与えられた。

「最初はそこまで夢中にならなかったのですが、レースに出て順位をつけられたことが刺激になったのでしょね。その後「練習したい」と言うようになりました。その姿を見て私も息子の次の成長のための環境をつくりたいと考えるようになったんです」（長谷川氏）。

子供が能力を発揮できる環境を整え、見守ることで、成長を促していく。ライアン氏と長谷川氏が見せた父親としてのスタンスは、これからもストライダーを通して、世界の父親に受け継がれていくだろう。



■ ストライダースポーツモデル  
¥13,500+税  
「より快適に、より安全に、より長く遊べる」をコンセプトに開発された、高性能なスポーツモデル。  
重さ：3.0kg、対象年齢：2～5歳、体重制限：27kg、カラー：全7色（グリーン・レッド・ブルー・オレンジ・ピンク・イエロー・ブラック）  
※3月上旬発売予定



■ ストライダークラシックモデル  
¥10,900+税  
「シンプルで軽い」というストライダーの原点を忠実に踏襲した、エントリーに最適なクラシックモデル。  
重さ：2.9kg、対象年齢：2～5歳、体重制限：27kg、カラー：全4色（グリーン・レッド・ブルー・ピンク）  
※3月上旬発売予定

■ カスタムパーツ for STRIDER  
軽量化されたハンドル、より握りやすいグリップ、足の動きを妨げないスリムなノーズ形状のシート、かかとが当たりにくいナットやスクエアなど、DADDYLABでは多様なカスタムパーツが販売されている。我が子仕様にカスタムすることで、ストライダーをもっと楽しく乗りこなせるようになるはず。



カスタムを加えて我が子専用のストライダーを！

早く自転車に乗れるように手伝いたいという想いが原点。子供が苦戦する姿を見て、自分で作ろうと思ったんだ。



軽量化が施されたプロトタイプ  
のストライダーは見ての通り簡単に持ちあがる。



2歳の息子さんがまたがっても足が地面に着くように、自転車のフレームをカッターした。



ストライダーの生みの親 ライアン・マクファーランド氏  
ストライダー・スポーツ・インターナショナル社創業者。市販の子供用自転車を改造して試行錯誤し、ストライダーの原型を作った。

ストライダーを介して見えた子供の可能性。それを伸ばす環境を整えることで、父親のレベルが上がると思う。



ストライダーを通して目にした息子の成長が、父親としてできることを改めて考えるきっかけになった。



レースに出場したことによって、勝つことへの執着が生まれた長谷川氏の息子さん。



DADDYLAB 長谷川一英氏  
有限会社イクス・プロデュース代表。ストライダーのカスタムパーツをはじめとする父親目線のキッズプロダクト「DADDYLAB」を展開。